

[分類]	普及技術
[成果名]	りんごのシンクイムシ類、ハマキムシ類防除にイカズチWDGが有効である
[要約]	りんごのシンクイムシ類、ハマキムシ類防除にイカズチWDGの 1,500 倍液を散布する。本剤は合成ピレスロイド剤であり、使用は指定地域に限る。マメコバチ、ミツバチに対して影響があるので、訪花活動期間中は使用しない。
[担当]	果樹試験場環境部
[部会]	病虫部会

### 1 背景・ねらい

近年、モモシンクイガの被害が微増傾向にある。そこで、モモシンクイガ防除に効果が高いとされている合成ピレスロイド剤の中で、薬剤調製時に粉立ちが少ないイカズチWDGのりんごのシンクイムシ類とハマキムシ類に対する防除効果を調査し、有効性が確認できたので今回普及技術とした。

### 2 成果の内容・特徴

(1)りんごのシンクイムシ類、ハマキムシ類防除にイカズチWDGの 1,500 倍液を散布する。

農薬登録内容

イカズチWDG

[一般名及び成分含量] シペルメトリン 9% (IRACコード<sup>(注)</sup>: 3)

[毒性] 人畜毒性: 劇物 [魚毒性] C類相当

[対象作物に対する適用登録状況 (平成 26 年 10 月 1 日 JPP-NET 確認)]

作物名	適用害虫	希釈倍数	散布液量	使用時期	本剤及びシペルメトリンを含む農薬の総使用回数	使用方法
りんご	シンクイムシ類 ハマキムシ類 キンモンホソガ ギンモンハモグリガ アブラムシ類 カメムシ類	1,500倍	200~700 ℓ/10 a	収穫前日 まで	2回以内	散布

本試験は純粋に殺虫剤の効果を判定する目的のため、また、適用登録内容が決定される以前に実施したため、散布条件は適用登録の範囲を超えた。

IRACコード<sup>(注)</sup>とは、IRAC (殺虫剤抵抗性対策委員会) が定める殺虫剤の作用機構による分類で、同じコードは同一系統を表す。詳細は農薬工業会のホームページ (<http://www.jcpa.or.jp>) を参照する。

### 3 利用上の留意点

- (1) 本剤は、アグロスリン水和剤と同じシペルメトリンが成分の合成ピレスロイド剤である。抵抗性の出現を防ぐため、合成ピレスロイド剤は年 2 回以内の使用にとどめる。また連用は避け、作用性の異なる薬剤とローテーションによる使用とする。
- (2) 蚕に対する毒性が極めて強く、また魚類及び甲殻類に対する毒性も極めて強いため、使用できる地域の指定があるので、これ以外では使用しない。
- (3) マメコバチ、ミツバチに対して影響があるので、訪花活動期間中は使用しない。
- (4) 眼に対して刺激性があるので、眼に入らないよう注意する。
- (5) のど、鼻、皮膚などに刺激やかゆみを生じる場合があるので注意する。

#### 4 対象範囲

県下全域 りんご栽培地域 7,950ha のうち使用指定地域に限る。

#### 5 具体的データ

##### (1) りんごのシンクイムシ類に対する効果

りんごのモモシンクイガに対してイカズチWDG1,500倍は、平成25年の試験で対照薬剤のバリアード顆粒水和剤4,000倍より高い防除効果が認められた(表1)。平成26年の試験でイカズチWDG1,500倍は、対照薬剤のアディオン水和剤2,000倍と同等の高い防除効果が認められた(表2)。

両試験とも、葉害はみられなかった。

表1 りんごのモモシンクイガに対するイカズチWDGの防除効果(平成25年、果樹試験場)

供試薬剤	希釈倍数	調査果数	被害果率(%)	葉害
イカズチWDG	1,500	40	0	なし
バリアード顆粒水和剤	4,000	40	22.5	なし
無処理		40	72.5	

場所：果樹試験場内 発生状況：多発生 品種：「ふじ」(マルバカイドウ台木樹)、成木  
面積・区制：垂主枝単位で20果調査 2反復  
処理方法：6月28日、7月12日、25日の3回、垂主枝に十分量散布(マイリノー10,000倍加用)  
調査日：7月31日に各調査区より20果を解体調査し、幼虫食入のみられる被害果を計数

表2 りんごのモモシンクイガに対するイカズチWDGの防除効果(平成26年、果樹試験場)

供試薬剤	希釈倍数	調査果数	被害果率(%)	葉害
イカズチWDG	1,500	200	0	なし
アディオン水和剤	2,000	200	0	なし
無処理		200	47.0	

場所：果樹試験場内 発生状況：多発生 品種：「ふじ」(マルバカイドウ台木樹)、成木  
面積・区制：1区1樹 2反復  
処理方法：6月17日、7月1日、15日、28日の4回、30リットル/樹散布(マイリノー10,000倍加用)  
調査日：8月11日に各調査区より100果を解体調査し、幼虫食入のみられる被害果を計数

##### (2) りんごのハマキムシ類に対する効果

りんごのトビハマキに対してイカズチWDG1,500倍は、対照薬剤のフェニックスフロアブル4,000倍よりやや速効的で、高い防除効果が認められた(表1)。

りんごのリンゴコカクモンハマキに対してイカズチWDG1,500倍は、対照薬剤のダーズバンDF3,000倍と同等の高い防除効果が認められた(表2)。

両試験とも、葉に対する葉害はみられなかった。

表3 りんごのトビハマキに対するイカズチWDGの防除効果（平成26年、果樹試験場）

供試薬剤	希釈倍数	生幼虫数（2反復の合計）		葉害
		散布前	散布7日後	
イカズチWDG	1,500	45	0	なし
フェニックスフロアブル	4,000	45	5	なし
無処理		57	52	

場所：果樹試験場内 発生状況：接種 品種：「ふじ」（マルバカイドウ台木樹）、強剪定樹5～15年生  
面積・区制：1区1樹 2反復

処理方法：6月10日 2リットル/樹散布（マイリノー10,000倍加用）

調査日：6月4日～6日に2齢幼虫を網掛け放虫し、散布前（6月9日）、散布7日後に生幼虫数を計数

表4 りんごのリンゴコカクモンハマキに対するイカズチWDGの防除効果

（平成26年 果樹試験場）

供試薬剤	希釈倍数	生幼虫数（2反復の合計）		葉害
		散布前	散布6日後	
イカズチWDG	1,500	91	1	なし
ダーズバンDF	3,000	80	0	なし
無処理		60	44	

場所：果樹試験場内 発生状況：接種 品種：「ふじ」（マルバカイドウ台木樹）、強剪定樹5～15年生

面積・区制：1区1樹 2反復

処理方法：9月19日 2リットル/樹散布（マイリノー10,000倍加用）

調査日：9月17日に2～3齢幼虫を網掛け放虫し、散布前（9月19日）、散布6日後に生幼虫数を計数

## 6 特記事項

[公開] 制限なし

[課題名、研究期間、予算区分]

果樹の病害虫に関する素材開発研究、平成25～26年度(2013～2014年度)、素材開発